



原田全修議員

問

- 「森林・林業・木材産業づくり交付金事業」の活用等で山に雇用を生む考えはないか
- 「森の力再生事業」では間伐対象ゾーンの見直しで雇用拡大が図れるのではないのか

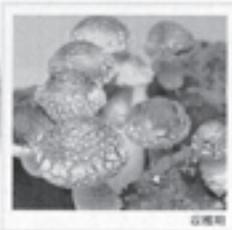
質問 第1次川根本町総合計画における森林・林業・木材産業の主要課題について伺う。

町長 消費者と結びついた林業の振興、低コスト林業への転換を図る必要がある。端的に具現化したものがFSC森林認証取得事業である。

質問 農水省の「農山漁村活性化のための戦略」を当町の木材産業の振興策にどう生かそうとしているか。

町長 山村の価値を再認識して、環境・教育・健康の3分野で山村を再生していく提言であり、当町としては企画観光課を中心に、雇用の創出についてはグリーンツーリズム事業で内発的な交流ビジネスを育てるモデル事業に取り組んでいる。また、産業課を中心に森林整備や木材の利活用促進に取り組んでいる。

質問 平成20年度から



菌床シイタケ栽培のイメージ

の制度である森林・林業・木材産業づくり交付金事業について、議会への説明では、当町の民有林は約2万haあり今後計画的な伐採や間伐を適切に実施していくことが重要であるが、林業生産活動は材価の低迷、担い手の減少により厳しい状況にある。これらの課題に対処するため生シイタケの菌床生産施設の整備を行うことにより、地域の木材産業の活性化と生産基盤の強化を図るという説明であった。

町長 平成21年度において菌床栽培の菌床製造と菌床シイタケの販売業務を執行行う農事組合法人「川根美味しいたけ」の加工流通施設の整備事業であり、平成19年10月に事業要望がありこの交付金事業で実施していこうという方向づけをした。

質問 菌床シイタケの需要は現在拡大中であり、新規就農者が町内で2名、町外からの参画者もおり雇用の創出が図れる。

質問 産地化を図るといふのは、将来は原木栽培まで発展させるということではないのか。

町長 菌床の原料も町内から調達するというのが理想かもしれない。そうしたことビジネスチャンスとして一つの広がりになってくる

とは思う。しかし、それに関するに行政が指導的な立場になるという状況ではない。自分の所有山林にシイタケ原木を植えるかどうかというのは、それぞれの経営戦略の中で位置づけられるものと思う。

質問 林業関係者には説明ができていないのか。

町長 林業対策振興協議会では、10月の会議において、特用林産物活用施設整備事業の事業計画の説明という形で説明をしている。その際、この計画に対して特に異論は無い。

質問 「森の力再生事業」で森林にもっと雇用拡大を図る必要があるのではないのか。

町長 当事業は、新たな雇用の創出の契機である。しかし、土砂の流出を防ぎ、水源涵養をする「水土保持林」を流域全体、県全体で守るといふ制度であるため、間伐の対象となるこのゾーン拡大を安

答

- 菌床シイタケ生産施設の整備で林産業の活性化を図る
- 当事業を拡大するためのゾーン変更には問題がある

易に論じるのは問題があると思う。ただ、2年後の制度見直し時期には皆様の意見を県の森林審議会等でも反映させていきたい。